

## ラオス人民民主共和国支援活動 2023.4 活動報告

認定 NPO 法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会（以下 JCV）を通して、ポリオワクチンを寄付している支援国の 1 国「ラオス人民民主共和国（以下ラオス）」へ支援活動に行き参りましたので下記活動をレポートいたします。

年に 2 回行われていた支援活動も、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受け海外への渡航が困難となり中止されておりました。

この度 2023 年 3 月、約 3 年ぶりに支援活動に行くことが可能となりました。ラオスに焦点を当てると約 6 年ぶりの訪問となります。国の情勢や人々の衛生管理に関するマインドも変化されたことでしょう。

コロナウイルス前後の状況変化にもフォーカスしてレポートさせていただきます。

皆さまのお部屋のお片づけが世界中の笑顔を創ります、ラオスの赤ちゃんにポリオワクチンがしっかり届いている様子をご覧ください。導入動画：[https://youtu.be/MbW-ayp\\_3YI](https://youtu.be/MbW-ayp_3YI)



### 【ラオスについて】

インドシナ半島に位置するメコン地域諸国のひとつであり、ASEAN 唯一の内陸国です。

国土のほとんどが山岳地帯であり首都ビエンチャン周辺とメコン川流域を中心に平地が広がっています。



首都：ビエンチャン 言語：ラオス語

民族：ラオ族を含む 49 民族

宗教：仏教（人口の約 64.7%）

面積：24 万km<sup>2</sup> 人口：約 730 万人（日本約 60%の国土面積に埼玉県の人口）

人口構成比：年少人口(0~14 歳): 34.8%

生産年齢人口(15~24 歳): 21.3%

生産年齢人口(25~64 歳): 40.1%

高齢者人口(65 歳以上): 3.8%

ポリオ状況：2017 年ポリオフリー宣言

### 【ラオスワクチン接種に関する歴史】

1982 年：国家予防接種計画（NIP）は、6 種類ワクチン（BCG、ジフテリア、破傷風、百日咳、ポリオ、はしか）を導入し「予防接種拡大計画（EPI）」を開始

国内の 2 つの県と 10 地区で試験的に開始され、1989 年までに徐々に全県に実施拡大された。

1995 年：ポリオ撲滅の活動を通じて、全地区が主な対象地域となる。

2002 年：GAVI アライアンスはラオスに対し、予防接種サービス支援（ISS）、4 価（DTP-HepB）ワク

チンの一部としての B 型肝炎ワクチンなど複数のワクチンの導入を含む注射安全性支援を行っている。その後、2006 年に HepB 一価ワクチン・2009 年に DTP-HepB-Hib ワクチン・2013 年に肺炎球菌結合型ワクチン (PCV-13) & ヒト乳頭腫ウイルス (HPV) ワクチン実証プロジェクト・

2015 年に不活化ポリオワクチン (IPV) と日本脳炎 (JE) を導入した。

2015 年 10 月、NIP は、世界ポリオ撲滅エンド戦略の枠組みの中で IPV ワクチンを導入した。ポリオ撲滅戦略の一環として、NIP は 2016 年 4 月に 3 価の経口ポリオワクチン (tOPV) から 2 価の経口ポリオワクチン (bOPV) に切り替えるための「切り替え計画」を策定した。

※古着 de ワクチンを通じて、寄付しているのは経口ポリオワクチンです。

※直近ラオスのポリオワクチン接種率は 2020 年 89%・2021 年 86%・2022 年 81%。コロナウイルスの関係から一時的にパーセンテージが低下したが、2023 年 3 月現在回復傾向にある。



【支援活動訪問県の位置関係と概要】



Day1：カンボジアを經由し首都ビエンチャンへ到着

Day2：首都ビエンチャン中央ワクチン保冷庫

・ユニセフラオス事務所訪問

Day3：ノンサ村出張ワクチン接種会場訪問・バーシー伝統儀式

・チャンパーサク地域ワクチン保冷庫訪問

Day4：サケア保健所母子ワクチン接種会場

・アッタプー地方サケアノウア小学校訪問

Day5：アッタプー県立病院訪問

Day6：ビエンチャンマホソットラオス中央病院訪問

【古着 de ワクチンがポリオワクチンに換わるまでの流れ】

ステップ1

古着deワクチンでお片づけ



ステップ5

市の病院・診療所へ



ステップ6 地方の接種会場へ

温度管理をしながらバイクや徒歩でワクチンを運搬



©UNICEFLAOS/2023

ステップ2-1

認定NPO法人 JCVへ寄付が届く



ステップ4

サブナショナルワクチン保管庫



ステップ7

子どもたちへポリオワクチン接種



ステップ2-2 ユニセフと連携

支援国や地域を指定しユニセフと連携ワクチン及び関連機器を支援国へ供与



ステップ3

支援国中央保冷库へ保管



ステップ8

ワクチン接種を受けた赤ちゃんが元気に成長



上記ステップの通り、皆様が古着 de ワクチンを通してお部屋のお片づけが、開発途上国の子どもたちの命と健康を守る経口ポリオワクチンに生まれ変わります。

【中央ワクチン保冷库訪問】（※表ステップ3）

2023年3月27日

ラオス家保健省 ドクター：コンサイさん、ユニセフ予防接種拡大計画担当：サンファムさん同行のもと、首都ビエンチャンにある中央ワクチン保冷库を訪問しました。ユニセフが決めた配分のワクチンが最初に届く場所です。

到着して最初に驚いたのは、保冷库の外に山積みされた段ボールの数です。こちらは新型コロナウイルス予防接種用注射器や必要医療器具でした。保冷库内に入りきらずコロナ期間の3年間はこの状況が続いたそう。首都ビエンチャンの様子として、町の住民はほぼマスクをしている姿はなく、一部の医療従事者はマスクをしている状況でした。日本よりも大分前に規制などは緩和されており消毒やアクリル板などは見受けられなかった。



中央ワクチン保冷库の中に入ると、大きな冷蔵庫が4つほど設置されており、各ワクチンの適正保管温度で保管されています。経口ポリオワクチンはマイナス16℃で保管されており、接種時は2℃～8℃です。現在の温度管理はスマートフォンから遠隔で管理でき人と人との接触はしなくても良い状況。一番古い保冷库は16年選手、こちらはJCVから2007年に寄贈されたものとのことで修理しながら大切に使用されている様子が伺えました。古着 de ワクチンのロゴもしっかり認知されておりました。



### 【JICA ラオス訪問】

ユニセフチームと密に関係がある「JICA ラオス局」(ジャイカ=独立行政法人国際協力機構:日本の政府開発援助 ODA を一元的に行う実施機関)を訪問し、所長:長瀬さんよりラオス社会の変化や経済状況についてお話をお伺いしました。コロナによる経済的ダメージ(特に観光業)は大きかったようです。ビエンチャン市内のレストランやホテルは廃業せざるを得ない状況となったそう。カントリーサイドは元々自給自足の生活があった為首都よりは被害は少なかった。2020年ラオスは水際対策をしておりましたが、外国人からコロナが広がったというマインドが広がり、在住外国人は早めにワクチンを打つようにと政府からアナウンスがあったとか。2023年3月現在徐々に経済活動が戻りつつあるが、まだまだコロナ前と同じ状況とはならず、ラオス政府経済 GDP は5%から2%へ低下。政府は観光産業を強化しつつエネルギー、鉱山産業に手をいれていく動きがあるとのこと。

コロナが原因で良い影響をもたらした点もあるという。地域差は当然あるが、衛生面(手洗い)が根付いたことである。今まで手を洗わずご飯を食べたりお手洗いにいっても手を洗うという習慣・概念がなかった方も少し意識改革の手助けになったと言われている。

教育の水準にもラオスは大きな問題を抱えている。国連が定める初等教育(小学5年生レベル)の達成度、算数は8%読み書きは2%と非常に厳しい教育状況である。



### 【ユニセフラオス訪問】(表ステップ 2-2)

2日目の午後ユニセフラオスを訪問し代表のピア氏とのディスカッションを行う。

ユニセフチームからのメッセージとしては、「ワクチンについてコールドチェーン\*や保護者への働きかけ等も含めた包括的な支援を途切れることなく継続的に支援している団体は世界的にも珍しい。私たちとしてもラオスとしても、感染症の予防をして子どもたちの命を救う為、JCV を通しての支援にはとても感謝している。ラオス保健省では日本の J C V の名前を知らない職員は誰一人としておりません」という嬉しく力強い言葉を頂戴した。一時的や単発の支援ではなく、継続することの大切さ・循環型であることの意味をより強く実感した。ピア氏のコメントと共に今回のラオス支援活動についてビエンチャンタイムズという新聞一面にとりあげられました。

\*コールドチェーン=ワクチンを推奨温度で安全に保管・輸送するシステムのこと



©UNICEFLAOS/2023



Vientiane Times



ທະນາຄານພົງສະຫວັນ  
Phongsavanh BANK

# Business

Read more news at [www.vientianetimes.org.la](http://www.vientianetimes.org.la)

Friday March 31, 2023

7

## UNICEF strengthens cooperation to ensure vaccines for all in Laos

The Japan Committee, Vaccines for the World's Children (JCV), a nonprofit organisation that works to support routine immunisation in developing countries around the world, recently joined UNICEF on a field mission to Champassak and Attapeu provinces of Laos.

During their visit to Champassak and Attapeu provinces between 28-29 March, the JCV delegation had the opportunity to observe the vaccination system at local health centres, and vaccination outreach services at schools and communities.

"The visit will help us identify strategic areas of support for the Lao PDR's routine immunisation programme and ways in which JCV, and in essence the people of Japan, can better support the Lao PDR in ensuring life-saving vaccines are within reach



Director-General of JCV, Okudera Noriho dropped polio for a child.

--Photo UNICEF

of all children as per our General of JCV, Okudera mission," said Director-Noriho.

The People of Japan have been long-time supporters of the Lao PDR's routine immunisation programme.

During the COVID-19 pandemic, Japan has also been a close supporter of Laos in its national pandemic response activities and vaccination campaign. These support included the provision of more than 300,000 doses of COVID-19 vaccines to Laos as well as cold chain equipment such as vaccine carriers, fridges, cold boxes, alongside special refrigerated vehicles for Xekong and Attapeu provinces for the transport of vaccines across vast distances.

"UNICEF thanks JCV and the people of Japan for their strong cooperation on the immunisation here in Lao PDR. We hope that this visit by the JCV delegation will help to further cement the strong existing collaboration between the two countries for the benefit of more Lao children," said UNICEF Representative to Laos, Dr Pia Rebello Britto.

Source: UNICEF

世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)はこのほど、ラオスのチャンパサック州とアッタプー州を訪問し、ラオスの定期予防接種プログラムへの潜在的な支援の可能性を視察しました。

開発途上国における定期的な予防接種の支援に取り組む非営利団体「世界の子どもにワクチンを」日本委員会(JCV)は、3月28日から3月29日にかけて、ユニセフとともにラオスのチャンパサック県とアッタプー県を訪問し、現地の保健センターでの予防接種システム、学校やコミュニティでの予防接種アウトリーチサービス(出張接種サービス)を視察を行いました。

COVID19感染拡大の際、日本はラオスの国家的なパンデミック対応活動やワクチン接種キャンペーンにおいて、ラオスを緊密に

サポートしてきました。

この支援には、30万回分以上のCOVID-19ワクチンの提供、ワクチンキャリア、冷蔵庫、コールドボックスなどのコールドチェーン機器、さらに長距離のワクチン輸送のためにセコン州とアッタプー州に特別な冷凍車両を提供もありました。

「ユニセフは、:日本の皆様が、こころラオスの予防接種に強力に協力して下さることに感謝します。

今回のJCVの訪問が、より多くのラオスの子どもたちのために、両国の既存の強い協力関係をさらに強いものにすることを期待しています」と、Unicefラオスのピア・レベロ・ブリット氏からコメントもありました。

### 【ノンビアン診療所訪問】(表ステップ5)

2023年3月28日

初日に訪問した中央ワクチン保冷库からサブナショナルワクチン保冷库のルートを経て、こちらのような地方の診療所にワクチンが届く。広さは6畳くらいの小部屋が3部屋ある程度の小さな施設。

17の村人(14,000人)を対象に診療しており産婦人科も兼ね備えていた。訪問当日の4時間前に出産したのママと少しお話できました。6人目の子どもで今日出産しまもなく帰宅すること。あたりまえかもしれませんが日本の「普通」とは大きく違いを感じた。医療スタッフは9名でほとんどが無給のボランティアスタッフで成り立っているとのこと。教育問題とも結びつくが、医師や看護師の免許制度も整っていない為、まだまだ整備されるには課題が山積みのような感じだった。しかし村人同士の助け合いの精神や横のつながり・地域のつながりは深いと感じた。

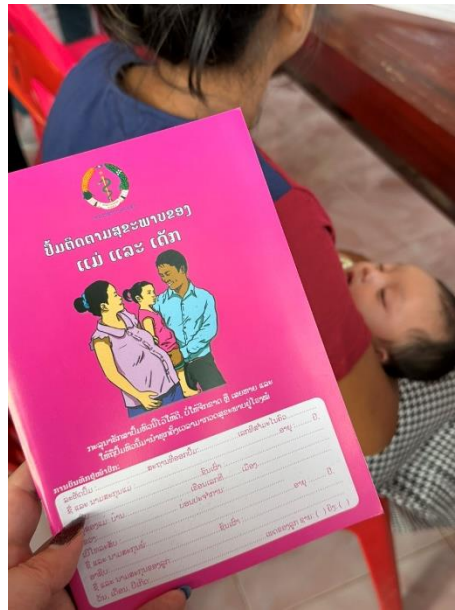


【ノンサ村出張ワクチン接種会場訪問】(表ステップ6.7)

2023年3月28日

訪れたのはチャンパーサク県にあるノンサ村。世界遺産古代遺跡ワットプーの近くにある自然豊かな小さな村。村のお寺で月に1回の開催「出張ワクチン接種」が行われました。朝からお父さんお母さんに連れられた赤ちゃん、学校の先生に連れられた子ども達がたくさん集まっていました。





ワクチン接種だけではなく、近年やっと制度が整ってきたという母子手帳を使っでの健康診断やカウンセリングも行なわれていた。予防接種を受けに来た 1 人のお母さんは「この予防接種によって子どもを病気から守ることができる」と感謝されていた。

コールドボックスと呼ばれるワクチンを適性温度で保管する為のクーラーボックスのような入れ物にも JCV のマークと共に古着 de ワクチンマークもしっかりと存在。カンボジアスタッフのソピアに続いて私自身も初めて経口ポリオワクチン接種を体験。赤ちゃんの口に「ポトン」と一滴。この一滴で助かる命があると思うと感慨深く、古着 de ワクチンの趣旨にご賛同いただき取組みに参加いただいているお客様にこの現状を知っていただきたいという想いと共に感謝の気持ちが溢れた。

カンボジア人スタッフソピアは「私がポリオ ワクチンの数滴を子どもに接種しました。首都から遠く離れた非常に遠隔地にいる子たちにポリオワクチン投与できたことは、私の人生を生きていく上で、とてもいい経験になりました。印象に残ったのはワクチンを接種した子供や家族が、とても幸せそうな表情でした。古着 de ワクチンに関する全ての人に感謝してもっと自分自身成長したいと思った出来事でした」と語った。





### 【アッタプー県サケア・ノウア小学校訪問】(表ステップ8)

2023年3月29日

道路の舗装もされておらず道なき道を進み続け到着した村はサケア村。素朴な生活を送る皆さまですが日本からの訪問を歓迎してくれた。ノウア小学校に着くと全校生徒 330 名が出迎えてくれ一緒に時間を過ごしました。「小さな頃にワクチンを接種したことがありますか？」という質問には「はい！」という元気な声が聞こえてきた。最初は外国人の私たちをみて少し怖がりシャイな子が多かったですが、慣れてくると走り回り元気いっぱい無邪気な姿が印象的でした。紐一本でリンボーダンスやかけっこ競争をしてみたり、プレゼントのピアノでチューリップを演奏したり、髪の毛を編み込み美容師ごっこ等スマホやゲーム、デジタル機器がなくても力いっぱい子ども達に遊んでもらいました。

小学生のエネルギッシュで弾ける笑顔を見ることができました。

改めて、ワクチンの予防接種がラオスを含め開発途上国の子どもたちの命と健康を守る一助となることを実感した。最初は警戒していた子どもたちも、私たちが帰る時間になると車まで駆け寄ってずっと見えなくなるまで「バイバイ」と手を振り続けてくれたことが、とても印象的で純粹無垢な気持ちが素敵でした。



【マホソットラオス中央病院】

2023年4月1日

ラオス滞在最終日、首都ビエンチャン市内に戻りラオス 1 大きい病院へ訪問した。こちらの病院は小児

科だけで 20 名のドクターと 40 名のナースが在籍しており 24 時間体制で管理されている最先端病院であり設備も充実していた。こちらの病院では 1 日 50 人以上の赤ちゃんがワクチンの予防接種に訪れるそう。この日出会った親子はお父さんが赤ちゃんをつれている様子が多く見られ世界各国ダイバーシティ、イクメンが広がっているのかと想像されました。新型コロナの感染症により国がロックダウンされた際は入院患者で溢れることもあったようですが、今は落ち着いてきたとのこと。地方の診療所などではマスク姿の医療従事者は見受けられなかったが、こちらの病院ではナース・ドクター共に医療従事者はマスク着用が徹底されたいた。

首都ビエンチャン市内はこのように整った医療環境があるが、地域格差がまだまだ大きな課題となっている。ラオスにおいて赤ちゃんの三大死亡理由は、肺炎・下痢・栄養失調となっている。



©UNICEFLAOS/2023

院長先生からのメッセージ「日本の方々から継続的なワクチン支援をいただけているおかげで、感染症でなくなる子どもの数は確実に減少しております。私たちも更なる努力をしております。」

【ユニセフ・保健省チームとのデブリーフィング】

2023年4月1日

マホソット病院をあとにし、その後は日本大使館へ訪問。駐ラオス小林特命全権大使にお会いしラオスの現状や抱える問題、日本企業の進出による経済発展の可能性などについてディスカッションさせていただいた。ラオス政府も厳しい財政状況に対し、赤字の国営企業改革、無駄の削減といった対策を行っているとのこと。またラオス航空によるが熊本空港への就航計画や工業系日系中小企業がラオスへ進出など、日本との関りも少しずつではあるが増えているとのこと。

最後は全体を通してのワクチン支援の在り方やラオスの医療体制について、保健省チームとお話をして今回の支援活動の全工程の終了となった。



【終わりに】

新型コロナウイルスの影響が少し落ち着いてきた2023年3月、約3年ぶり（ラオスは6年ぶり）となる支援活動の実施となり、やっと現地の様子を皆さまにお伝えできて嬉しく思います。

アフターコロナと呼ばれる時代に入りましたが、全世界においてこれ以上の被害が生まれないことを切に願います。

私自身も初めての支援活動参加となり、とても有意義な時間を過ごしましたし、今回の参加者は日本人の他に弊社カンボジアスタッフ2名、その他参加者様はラオスの隣の国タイからの参加となった為、自

国との違いや考え方などそれぞれあり勉強となりました。

ラオスは自然豊かで人の温かさに溢れた国でした。地域格差や教育の問題など課題はたくさんある中、今回出会った子ども達はみんなイキイキとしていました。赤ちゃんをだっこしているお母さん、お父さんも希望に満ち溢れた笑顔で私たちを迎えてくださり、エネルギーをもらえたように感じます。

古着 de ワクチンが誕生してから今年で 12 年が経ちました。

昨年にはカンボジア首都プノンペンに直営センターをオープンし、ポリオ障がいの後遺症があるスタッフや貧困地区で育った若者が自立をし、一生懸命働いております。直営センターのお洋服は 1 枚販売するごとに 1 ポリオワクチンを寄付する仕組みを導入しており、カンボジアの若者達特にインフルエンサーなどが趣旨に賛同し拡散され、1 年経たずして大人気店となっております。お店のコンセプトは「支援されていた側が誰かを支援する側に」まさに循環型の世界を目指します。また、障がい者アート協会とのコラボレーションとして衣類回収袋にアーティスト作品を掲載させていただき、販売個数に応じて著作権料をお支払いすることで、芸術活動を支援しております。

古着 de ワクチンはこれからも、よりたくさん世界中の笑顔を生み出すよう進化し続けます。

いつも活動を応援して下さる全ての皆さまに心から感謝申し上げます。

古着 de ワクチンに関わるスタッフが日常の様子を投稿しているインスタグラムもはじめました。

私たちがより身近に感じていただけますと幸いです。

「世界中の笑顔を生み出す、そんな素敵な出来事が今ここからはじまる」



写真提供：©Copyright2023UNICEF ©Copyright2023JCV ©Copyright2023NRS

2023 年 4 月

日本リユースシステム株式会社

古着 de ワクチン運営責任者 辻本真子